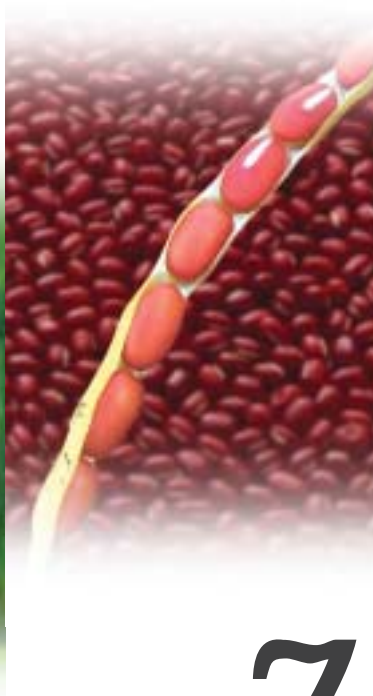




あずきの花
(北海道十勝小豆農場)



70 期 第 中 間 報 告 書

平成18年4月1日 ▶ 平成18年9月30日

Be always for Customers!

 井村屋製菓株式会社

コンテンツ

- 01 株主のみなさまへ
- 02 営業の概況
- 03 今期の見通し
- 04 中間連結財務諸表
- 06 中間個別財務諸表
- 08 TOPICS
- 09 社会・環境への取組み
- 10 商品のご案内
- 13 株式の状況・役員状況

グループポリシー

Be always for Customers!

社員一人ひとりが
「いつもお客様のことを意識しましょう」
との思いをひとつの言葉に託し、
グループポリシーとしました。

企業理念

楽しい商品すぐれたサービス

井村屋製菓は、「母と子」の「楽しい味づくり」をテーマに、素材を厳選し、伝統と先端の技術を融合させることにより、家庭における「食」を通じての手軽な楽しいひとときを提供してまいります。

井村屋製菓のコーポレートマークは、「母と子の楽しいひととき」をシンボライズしたデザインとなっています。そしてコーポレートマークを彩るコーポレートカラーには、井村屋製菓の企業姿勢を表現。「赤」は母と子の愛を、「青」はすぐれたサービスを提供する誠実さを、「黄」は楽しい商品を生み出す創造性を象徴しています。



会社概要

社名	井村屋製菓株式会社
本社所在地	三重県津市高茶屋七丁目1番1号
取締役社長	浅田 剛夫
創業	明治29年（1896年）
設立	昭和22年（1947年）4月
資本金	22億5,390万円
従業員数	644名（平成18年9月30日現在）

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第70期上半期（平成18年4月1日～平成18年9月30日）を終了し、
中間報告書をお届けするにあたりご挨拶を申し上げます。

第70期上半期の業績は当初の目標を下回る残念な結果となりました。
さまざまな外的要因の影響を受けたことも事実ですが、その多くは会社内部
の問題であり、「内なる問題」の解決が急務であることをあらためて強く
感じた期間でありました。

その上半期の活動の詳細につきましては後掲の「営業の概況」に記載の
とおりでありますのでご覧いただきたく存じます。

上半期の厳しい状況を「先憂後楽」とするために下半期に向かひましては、
「品質」（商品品質・経営品質）こそが最重要課題であるととらえ、当社の
マネジメント手法として

三安管理（安全・安心・安定のご提供）

三単管理（商品ごと・お得意先様ごと・セールスごとの売上・利益の管理）

三S管理（Strategy：経営戦略策定・Skill：技術を大事にする人材育成・Support：現場支援）

を確立し、その効果を現実の成果としていきたいと考えております。

平成19年4月に迎える「会社設立60周年」の節目を前に、グループポリシー「Be always for Customers！」
のもと、グループ一丸となり「気概」をもって目標達成に邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



取締役社長

浅田剛夫

営業の概況

業績の概況

当連結中間会計期間におけるわが国経済は、一部業種にあっては堅調な設備投資や雇用環境の改善が進み、景気は着実に回復基調にあると言われております。

しかしながら、菓子・食品業界では、原油価格の高止まりによる重油価格や関連資材の高騰に加え砂糖価格上昇などの原価への圧迫や、ますます激しさを増す小売流通業間の競争による低価格化など依然として厳しい環境が続いております。

このような状況下において、当社グループは激しく変化する経営環境への対応強化を目的に継続して業務構造改革を推進するとともに、メーカーの基本的な企業力は商品にあるとの認識から商品に関わる総ての業務を見直し「商品力の向上」を大きなテーマとする組織としてスタートいたしました。

将来を見据え戦略的に行ってきました設備投資におきましては、アイスクリームラインの新設（パーサライン）グループ会社の日本フード㈱におけるスパウチラインの増設、当社の強みとする餡（あん）の風味をさらにアップすることを目的として、当社および日本フード㈱に餡製造設備の導入を行いました。

売上面におきましては、改革を進めておりますアンナミラズスの閉店による影響や上期の主力商品であります「アイスクリーム」をはじめ「水ようかん」・「かき氷用シロップ」、日本フード㈱が受託生産をしております清涼飲料「スパウチ商品」など夏物商品が6・7月の長梅雨や日照不足などの天候要因もあって苦戦いたしました。

一方、6月に稼働いたしましたアイスクリーム設備（パーサライン）で生産を行っております「あずきバー類」や健康志向のなかにおいて「寒天関連のチルドデザート類」、シーズニングカンパニーでの健康機能性素材は伸長いたしました。全体の売上をカバーするにははいたりませんでした。以上の結果、当中間期の連結売上高は前年同期比99.1%の158億53百万円となりました。

収益面におきましては、原材料では原油価格動向に加えてガソリンの代替燃料となるサトウキビのエタノールへの転用によって砂糖価格も上昇し、肉まんの主原料であります豚肉・玉ねぎなどの価格の高騰も原価の押し上げとなりました。販売面では、小売業の激しい競争環境のなかで販売管理費や販売促進費

が増加いたしました。一方、品質の向上および安全・安心な商品の提供の観点から、下期の主力商品であります「肉まん・あんまん」の設備の増強やメンテナンスを早期に実施した費用の増加もあり、連結経常損失は96百万円となりました。

当期連結中間純損益は、フードサービスカンパニーの広尾店のアンナミラズ店舗からジュヴォー店舗への業態変革、自由が丘店・オペラシティ店の閉鎖などの損失を計上しましたが、投資株式の一部売却等もあって91百万円の損失となりました。

事業別の状況

< 流通事業 >

（菓子・食品・デイリーチルド）

菓子は、上期主力である「水ようかん」が前述の天候条件と相まって中元ギフト・最寄品ともに苦戦いたしました。「ようかん」・「和洋単品」類は、小売業との取組みにより8月から発売したミニようかんや和洋単品が売上に貢献いたしました。菓子全体の売上をカバーするにははいたりませんでした。

食品では、「お赤飯の素」が引続き前年同期比139.3%と好調に推移しました。「コールドデザート類」も健康志向のなかにおいて、食べやすいダイスカットにした新商品「寒天」（プレーン・青りんご・レモンの3種）が好評を得て前年同期比149.1%となりました。夏場の主力商品の「かき氷用シロップ」や日本フード㈱の受託商品でありますスパウチ商品は天候要因もあり、期待した売上にははいたりませんでした。

チルドフーズカンパニーが生産するデイリーチルド商品は、「やわらかかん天」・「おいしく飲める寒天」など健康食品ブームのなかで寒天商材を相次いで投入したこともありデザート類が大幅に伸長いたしました。また、豆腐・豆乳におきましても、有機豆腐を中心として業務用ルートが前年同期比147.4%と伸長し、豆乳も市販用では苦戦いたしました。原料素材としての市場が着実に拡大いたしました。しかしながら、改革途上でもあり利益への貢献にははいたりませんでした。

< 加温・冷菓 >

加温の肉まん・あんまん類は、4～7月には販売店へ通年販売を促進し、8月からは「素材に安心 調理を工夫 美味しさ満足 肉まん・あんまん」をキャッチフレーズとし品質へのこだわりとお客様ニーズを取り入れた商品づくりを行い2006年度本格シーズンのスタートをいたしました。

冷菓は、6～7月での天候不順の影響もあり氷菓系の「輪切りパイ」や「パフェ類」が苦戦をしたことで冷菓全体の売上高は56億64百万円で前年同期比92.7%となりましたが、主力商品であります「あずきパー類」は、パーソラインの積極的設備投資が功を奏して好調に推移し前年同期比107.8%と伸長いたしました。また、懐かしいアイスイメージしたメロンボール・オレンジボール・小玉すいか・たまごアイス・ももアイスなどの「駄菓子シリーズ」も好評を得て前年同期比103.2%となりました。

以上の結果、流通事業全体の売上高は129億10百万円（前年同期比100.4%）となりました。

< フードサービス事業 >

アンナミラズにおきましては、継続して改革を進め6月に広尾店をジュヴォー店舗に業態転換し、9月末をもって自由が丘店とオペラシティ店を閉店するとともに、下期には世田谷（経堂）にあるカミサリー（集約工場）を、新たにフードサービスファクトリーとして本社工場（高茶屋）に移設を行います。加えて、社内コラボレーションとしてアンナミラズブランド商品を知名度を生かし流通部門において販売をスタートいたします。

プロヴァンス地方の特徴をもったフランス菓子を販売するジュヴォーでは、4月にアトレ大井町店、6月に広尾店を開店し積極的な店舗展開を行う一方で、今後の販売増に対応し目黒アトリエの拡充を行いました。商品につきましてはチョコレートに加えてパート・ドゥ・フリュイ（フルーツのゼリー風菓子）が人気を博し今後の柱商品としての期待が高まってまいりました。

以上の結果、売上高はジュヴォーが前年同期比165.5%の91百万円と伸長しましたがアンナミラズの3店舗の閉店の影響もありフードサービス事業全体では4億66百万円（前年同期比65.6%）となりました。

< 調味料事業 >

調味料事業は、今年の夏の天候要因もあり麺つゆなどのだしの素関連商材が伸び悩みましたが、健康食品素材や機能性素材は順調に伸長いたしました。チルドフーズカンパニーとのコラボレーションとして開発した「豆乳パウダー」は、商品特徴が認められたこともあって大きな伸びとなりました。また、今後さらに液体調味料の新しい需要の拡大が予測されることから下期の設備の増強を決定いたしました。

以上の結果、調味料事業の売上高は24億58百万円（前年同期比101.5%）となりました。

< その他の事業 >

その他の事業はイムラ株におきまして、従来からの保険代理店業・リース代理業に加え、ゴルフ練習場跡地に新たに井村屋製菓株が建設した賃貸住宅（ヴィル グランディール）の管理業務をスタートいたしました。「安全・安心・快適な環境づくり」を最大のテーマとして活動を行っております。

以上の結果、その他の事業の売上高は18百万円（前年同期比149.3%）となりました。

今期の見通し

平成19年3月期の業績見通しについて

井村屋グループでは、連結売上高347億円、経常利益8億円、当期純利益4億5千万円を平成19年3月期の目標としております。

平成19年3月期の配当見通しについて

普通株式の配当につきましては、1株当たり年間8円とさせていただきます。予定であります。

平成19年3月期の業績 (単位:百万円)		平成19年3月期中間期 (実績)	平成19年3月期通期 (目標)
売上高	連結	15,853	34,700
	個別	14,750	32,300
経常利益	連結	96	800
	個別	221	450
当期純利益	連結	91	450
	個別	150	300

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	期別			科目	期別		
	前中間期末 平成17年9月30日現在	当中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成18年3月31日現在		前中間期末 平成17年9月30日現在	当中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成18年3月31日現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	10,238	10,544	9,026	流動負債	9,772	10,368	8,753
現金及び預金	990	758	960	支払手形及び買掛金	4,189	4,376	3,533
受取手形及び売掛金	5,735	6,302	4,975	短期借入金	1,201	2,283	1,427
たな卸資産	2,804	2,751	2,424	その他の流動負債	4,380	3,709	3,793
繰延税金資産	484	434	316	固定負債	2,595	4,026	2,918
その他の流動資産	225	297	351	長期借入金	450	1,921	744
貸倒引当金	0	0	1	その他の固定負債	2,145	2,104	2,173
固定資産	13,800	15,415	14,706	負債合計	12,367	14,395	11,671
有形固定資産	10,836	12,543	11,664	少数株主持分	10	-	-
無形固定資産	34	41	43	(資本の部)			
投資その他の資産	2,929	2,831	2,999	資本金	2,253	-	2,253
				資本剰余金	2,321	-	2,321
				利益剰余金	5,715	-	5,903
				土地再評価差額金	1,203	-	1,203
				その他有価証券評価差額金	347	-	572
				為替換算調整勘定	10	-	1
				自己株式	170	-	195
				資本合計	11,662	-	12,062
				負債、少数株主持分及び資本合計	24,039	-	23,733
				(純資産の部)			
				株主資本	-	9,969	-
				資本金	-	2,253	-
				資本剰余金	-	2,322	-
				利益剰余金	-	5,598	-
				自己株式	-	204	-
				評価・換算差額等	-	1,594	-
				純資産合計	-	11,564	-
資産合計	24,039	25,959	23,733	負債及び純資産合計	-	25,959	-

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	期 別	前中間期	当中間期	前 期
		平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売 上 高		16,003	15,853	33,557
売 上 原 価		10,386	10,726	22,065
売 上 総 利 益		5,617	5,126	11,492
販売費及び一般管理費		5,321	5,260	10,860
営業利益又は損失()		296	133	631
営 業 外 収 益		108	141	209
営 業 外 費 用		46	104	93
経常利益又は損失()		357	96	746
特 別 利 益		282	72	403
特 別 損 失		178	107	310
税金等調整前中間当期純利益又は損失()		462	131	839
法人税、住民税及び事業税		206	58	194
法人税等調整額		81	97	115
少数株主利益		3	-	8
中間当期純利益又は損失()		333	91	521

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	前中間期	当中間期	前 期
	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	237	630	883
投資活動によるキャッシュ・フロー	928	1,390	2,080
財務活動によるキャッシュ・フロー	241	1,823	735
現金及び現金同等物の増減額	450	196	461
現金及び現金同等物の期首残高	1,372	910	1,372
現金及び現金同等物の中間期末・期末残高	921	713	910

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等					純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差 額 金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成18年3月31日残高	2,253	2,321	5,903	195	10,283	572	-	1,203	1	1,778	12,062
中間連結会計期間中の変動額											
剰 余 金 の 配 当			201		201						201
利益処分による役員賞与			12		12						12
中 間 純 損 失			91		91						91
自 己 株 式 の 取 得				10	10						10
自 己 株 式 の 処 分		0		1	2						2
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)						184	0		0	183	183
中間連結会計期間中の変動額合計	-	0	305	8	313	184	0	-	0	183	497
平成18年9月30日残高	2,253	2,322	5,598	204	9,969	388	0	1,203	0	1,594	11,564

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間個別財務諸表

中間個別貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	期別			科目	期別		
	前中間期末 平成17年9月30日現在	当中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成18年3月31日現在		前中間期末 平成17年9月30日現在	当中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成18年3月31日現在
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	9,470	10,048	8,305	流動負債	9,107	9,984	8,247
現金及び預金	569	537	588	支払手形及び買掛金	4,086	4,215	3,322
受取手形及び売掛金	5,462	6,090	4,704	短期借入金	1,000	2,268	1,355
たな卸資産	2,747	2,669	2,381	その他の流動負債	4,020	3,500	3,569
繰延税金資産	434	397	282	固定負債	2,561	3,992	2,879
その他の流動資産	256	354	348	長期借入金	450	1,921	744
貸倒引当金	-	0	0	その他の固定負債	2,111	2,070	2,135
固定資産	13,012	14,453	13,903	負債合計	11,669	13,976	11,127
				(資本の部)			
有形固定資産	9,997	11,484	10,814	資本金	2,253	-	2,253
				資本剰余金	2,320	-	2,320
無形固定資産	27	35	36	利益剰余金	4,858	-	4,925
				土地再評価差額金	1,203	-	1,203
投資その他の資産	2,987	2,933	3,052	その他有価証券評価差額金	347	-	572
				自己株式	170	-	195
				資本合計	10,814	-	11,081
				負債及び資本合計	22,483	-	22,208
				(純資産の部)			
				株主資本	-	8,931	-
				資本金	-	2,253	-
				資本剰余金	-	2,321	-
				利益剰余金	-	4,560	-
				自己株式	-	204	-
				評価・換算差額等	-	1,593	-
				純資産合計	-	10,525	-
資産合計	22,483	24,502	22,208	負債及び純資産合計	-	24,502	-

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間個別損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科 目	期 別	前中間期	当中間期	前 期
		平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売 上 高		14,751	14,750	31,333
売 上 原 価		9,494	9,885	20,485
売 上 総 利 益		5,257	4,864	10,847
販売費及び一般管理費		5,137	5,123	10,528
営業利益又は損失()		120	258	319
営 業 外 収 益		95	140	162
営 業 外 費 用		44	104	90
経常利益又は損失()		170	221	391
特 別 利 益		216	71	293
特 別 損 失		154	79	258
税引前中間(当期)純利益又は損失()		232	228	426
法人税、住民税及び事業税		79	16	22
法 人 税 等 調 整 額		67	94	116
中間(当期)純利益又は損失()		220	150	287

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間個別株主資本等変動計算書(要約)

(単位:百万円)

平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等				純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差 額 金	評価・換算 差額等合計	
平成18年3月31日残高	2,253	2,320	4,925	195	9,304	572	-	1,203	1,776	11,081
中間会計期間中の変動額										
別途積立金の積立										
利益準備金の積立										
剰余金の配当			201		201					201
利益処分による役員賞与			12		12					12
中間純損失			150		150					150
自己株式の取得				10	10					10
自己株式の処分		0		1	2					2
株主資本以外の項目の 中間会計期間中の変動額(純額)						184	0		183	183
中間会計期間中の変動額合計	-	0	364	8	372	184	0	-	183	555
平成18年9月30日残高	2,253	2,321	4,560	204	8,931	388	0	1,203	1,593	10,525

記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

小豆のおいしさ、極めます

井村屋製菓が自信をもってお届けする「あん」のさらなる品質の向上を目的として新しいあん製造設備を導入しました。

当社が長年培った伝統の技術と先進の技術の融合によって、より一層あずきの風味と粒々感を楽しんでいただける仕上がりになりました。



中国・北京において営業許可を取得



中国（北京）で和菓子の製造・販売を行うことを決定し、手続きを進めてまいりましたが、平成18年10月18日付で「井村屋（北京）食品有限公司」（略称：IBF）の営業許可を取得し、11月に会社設立を行います。カステラを最初の商品として2007年1月より製造・販売活動を本格的に開始いたします。2011年には年商7億円を見込んでいます。

ウェブでの“商い”はじめました

9月1日にEコマース（電子商取引）サイト「井村屋ウェブショップ」（<http://webshop.imuraya.co.jp>）をオープンし、井村屋グループの商品をウェブ上でもお買い求めいただけるようになりました。現在取り扱っている「ようかん」など常温商品のラインナップに加えて「あずきパー」、「肉まん・あんまん」などの冷蔵、冷凍商品や「アンナミラズ」、「ジュヴォー」の商品の販売も順次行っていく予定です。ウェブショップのご利用を通じて当社の商品を広く認知していただき、小売業さまの店頭販売との相乗効果を生み出すことを狙いとしております。



素材に安心、調理を工夫、美味しさ満足 井村屋肉まん・あんまん

タレントの遠藤久美子さんが応援してくれる今年の肉まん・あんまんのテレビコマーシャルが現在放映中です。男の子の「具と生地が絶妙やね～」という関西弁でのコメントが印象に残る少しコミカルな仕上がりになっています。

肉まん・あんまんのおいしい季節。井村屋ならではの「旬」の味をお届けします。



社会・環境への取組み

井村屋グループはCSR（企業の社会的責任）を経営の重要課題と認識して、その実現に向けて様々な活動を実施しています。

工場見学

井村屋製菓では小学校の社会学習の一環として、主に本社のある津市内の小学生のみなさんに工場をご利用いただいています。



地域の清掃活動

井村屋グループ各社は毎月1回、各会社の敷地内およびその周辺の清掃を実施しています。毎回多数の従業員が参加して清掃活動に励んでいます。

ほかにも4月には新入社員研修の一環として津市の偕楽公園の清掃、7月には従業員の有志とその家族の参加で津市の御殿場海岸の清掃（写真）を行いました。



商店街への夜店出店

8月には地元商店街からの要請を受け、井村屋製菓として津市のだいたて商店街の夜店に出店しました。当社の肉まん・あんまんのキャラクター“トントンパパ”も参加してサッカーゲームを行い、ご来場のお客様に楽しんでいただくことができました。



ユニバーサルデザイン・エコデザインへの取組み

森林保護への取組みとしてギフトの包装紙と紙袋に非木材紙（さとうきびを絞り終えた後の繊維を利用した紙）を使用しています。

また、商品パッケージの「親切表示」にも積極的に取組んでいます。



商品のご案内

菓子



あずきおこし 五穀おこし
健康素材として注目の「五穀」と豊かな栄養素を含んだ「小豆」を手軽に食べやすく「おこし」にしました。



銘菓の集い
「和」素材を使ったまんじゅうやようかん、あられを詰め合わせたお茶請けにぴったりのギフトです。

食品



ぜんざいシリーズ
(写真左からぜんざいファミリーパック・おいしいぜんざい・和菓子屋さんのぜんざい)
井村屋のぜんざいシリーズがさらに美味しく生まれ変わりました。
丁寧に炊いた小豆に砂糖をじっくりなじませて小豆本来の風味と旨味を十二分に引き出しています。装いも新たにパッケージデザインに統一感を持たせています。



お赤飯の素 お赤飯セット
大人気の「お赤飯の素」に姉妹品が登場。無洗米の白米とごま塩を添えて手軽なセットにしました。



デイリーチルド



おいしく飲める寒天(みかん味・ぶどう味・りんご味)
食物繊維がたっぷり含まれている寒天を使用した新食感の飲料です。



北海道産本にがり豆腐
北海道産の良質な大豆「とよまさり」を濃くしぼり、にがりです仕上げた大豆のうまみたっぷり、こだわりの豆腐です。



やわらかかん天(グレープフルーツ味・レモン味・コーヒー味)
ようかんの素材として長く寒天を使用してきた井村屋だからできる寒天の特性を活かしたデザートです。

肉まん・あんまん



4コ入冷凍まんじゅう



麗華（リーファ）シリーズ

（写真左上：素材が活かした肉まん、
中央：大納言あんまん、右上：手包み角煮豚まん）

素材と味付けにこだわり、独自の製法でさらに
おいしく仕上げた井村屋の自信作です。1コ入は
袋のまま電子レンジで簡単に調理できます。



3コ入チルドまんじゅう



あんまん



肉まん



冷菓



伝統の味「あずきバー」に
新しい2つの仲間が登場！



BOXミルク金時バー
やわらかい食感
のつぶあんを
やさしいミルク味
のアイスで包み
ました。



BOX宇治金時バー
宇治抹茶の香り
高い、つぶあん
との相性抜群の
アイスです。



BOXあずきバー
井村屋独自の
製法で炊き上げた
伝統の逸品です。
無添加で小豆の
風味が生きて
います。

商品のご案内

アンナミラーズ



アメリカンフード&スイーツのレストラン「アンナミラーズ」では、アメリカのフロンティア時代の古き良き「食」の伝統をベースに、ヘルシーな自然素材を使ったフードメニューや、ボリュームたっぷりのホームメイドパイ、チーズケーキをはじめとするアメリカンスイーツを提供しております。



ジュヴォー



太陽の光を浴びて生まれたプロヴァンスの大地の恵みに感謝を捧げながら、真心をこめて伝統的な製法により作られる「ジュヴォー」のスイーツ。



パートドゥフリユイ（写真上）は、果物をギュッと一口サイズに濃縮した、香り豊かなとても贅沢な味わいが楽しめます。

ショコラ写真左は、フランスのショコラガイドブック「クロクールドゥ ショコラ」で、4タブレットに輝く逸品です。

調味料

シーズニングカンパニーでは業務用調味料の製造・販売を行っています。天然調味料のおいしさを追求するとともに、機能性のある調味料・素材の開発にも取り組んでいます。



マンゴーパウダー

豊かな甘味と酸味をもつマンゴーの王様“アルフォンソ種”を使用したパウダーです。



粉末 黒ゴマ

油脂を多く含む黒ゴマのベーストを分離せず使いやすい粉末にしました。



豆乳パウダー

とうふ屋さんならではのこだわりの豆乳を使用して粉末にしました。

JiAi



ベジチャウ

ブラウンチャウダー トマトチャウダー

植物性素材のみでつくった野菜たっぷりの体にやさしいチャウダーです。ノンコレステロール、低カロリー、植物性たん白使用でとってもヘルシーです。

下期より関東地区での販売をスタートいたします。

株式の状況

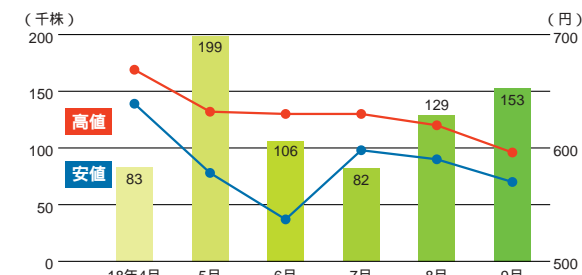
大株主一覧(平成18年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,142,420	4.45
株式会社第三銀行	1,136,200	4.43
株式会社百五銀行	1,070,780	4.17
井村屋取引先持株会	998,709	3.89
双日株式会社	965,190	3.76
服部月松	824,666	3.21
瀬古製粉株式会社	726,152	2.83
株式会社りそな銀行	572,000	2.23
井村屋従業員持株会	570,606	2.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・CMTB エクイティインベストメント株式会社信託口)	562,000	2.19

株式の状況(平成18年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 100,000,000株
発行済株式の総数 25,644,400株

株価推移表



	18年4月	5月	6月	7月	8月	9月
高値	669	632	630	630	620	596 ^円
安値	639	578	537	598	590	570 ^円
出来高	83	199	106	82	129	153 ^{千株}

役員の状況

取締役及び監査役(平成18年9月30日現在)

取締役会長	山川	皓
取締役社長	浅田	剛夫
専務取締役	下保	憲一
常務取締役	竹田	節郎
常務取締役	山際	博生
取締役	寺田	勝
常任・常勤監査役	大杉	孝洋
常勤監査役	藤井	薫愛
監査役	安藤	泰子
監査役	土川	禮子

1. 印は代表取締役であります。
2. 印は社外監査役であります。

執行役員の状況(平成18年9月30日現在)

下保 憲一	専務取締役兼執行役員 マネジメントグループ・カンパニー・関連会社掌管
竹田 節郎	常務取締役兼執行役員 マネジメントグループ長兼財務部長 全社CSR・IR・コンプライアンス担当
山際 博生	常務取締役兼執行役員 マーチャンダイズグループ長
寺田 勝	取締役兼執行役員 マーケティンググループ長
大西 邦雄	執行役員、株式会社ポレア専務取締役
石渡 正博	執行役員フードサービスカンパニー長
前山 健	執行役員マーチャンダイズグループ副グループ長 兼生産統括部長
村田 清	執行役員マネジメントグループ副グループ長 兼経営企画室長
落合 英美	執行役員、日本フード株式会社専務取締役
菅沼 重元	執行役員 北京京日井村屋食品有限公司副董事長兼総経理 中国ビジネス担当
中川 俊郎	執行役員チルドフーズカンパニー長
中山 富夫	執行役員マーチャンダイズグループ副グループ長 兼購買・ロジスティックス統括部長
中島 伸子	執行役員関東支店長

株主さま Information

決 算 期	3月31日(年1回)
配当金受領株主確定日	利益配当金につきましては3月31日、中間配当金の支払いを行う場合は9月30日といたします。
定 時 株 主 総 会	6月中開催
定時株主総会の基準日	3月31日
告 告 掲 載 新 聞 名	日本経済新聞
貸借対照表ならびに損益計算書のホームページアドレス	http://www.imuraya.co.jp/kessan/
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所 市場第二部 名古屋証券取引所 市場第二部
株 主 名 簿 管 理 人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部 電話 0120-78-2031(フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

注) 必要があるときは、取締役会の決議によりあらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。

株主さまご優待

毎年3月31日現在及び9月30日現在の株主のみなさまに対し、当社製品を以下の基準により贈呈。

1,000株以上の株主さま

1,500円相当のオリジナル商品



3,000株以上の株主さま

3,000株以上の株主さまには1,500円相当のオリジナル商品に加えて1,500円相当のギフト商品を5種類の中からひとつお選びいただけます。

【ご住所はお変わりありませんか】

配当金などに関する送付物は株主さまにお届けいただいたご住所あてにご送付させていただきます。そのためご住所を変更されたときや市町村合併、住居表示の変更などによって町名・地番等が変更になったときはお早めにお手続きをさせていただきますようお願いいたします。

お手続きいただく際は当社の株式事務を取り扱っております中央三井信託銀行にお申し出ください。お問い合わせ先は下記のとおりです。

ただし、証券保管振替制度をご利用されている株主さまは、お取引の証券会社等にご連絡いただきお手続きをお取りくださいますようお願いいたします。

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先：0120-78-2031
(受付時間：平日9:00～17:00)
用紙のご請求先：0120-87-2031
(24時間受付、自動音声案内)



この印刷物は環境に配慮した、古紙100%再生紙と植物性大豆油インキを使用しています。

<http://www.imuraya.co.jp>